

佐久市新品目導入試験事業

平成27年度事業報告書



佐久市営農支援センター

1 新品目導入試験事業の目的と

平成27年度の事業の経過について

当事業は、新品目の農作物や新技術について、佐久市の気候や風土に合い、かつ経済性を発揮できるかの試験をし、適合する品目等において農業者へ普及を図るために、当佐久市営農支援センターが試験業務を受託し、佐久市跡部において事業を進めています。

本年度は本事業の受託5年目となることから「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」「新たな佐久市ブランド製品の育成」について、より普及拡大を目的として取り組みました。

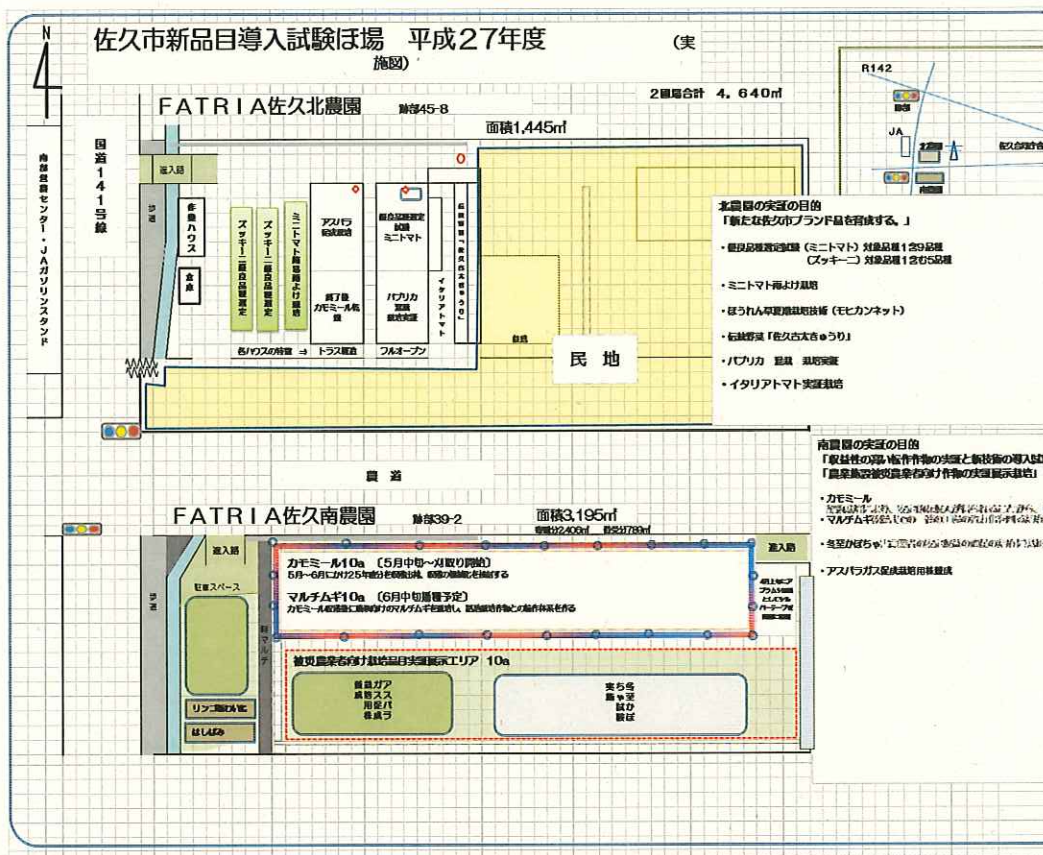
目標の1つ目である「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」については、米価の下落が米生産中心の農業経営を直撃し、収益性の高い転作作物の導入はさらに重要度を増すなかで、カモミールや冬至かぼちゃなどの作物を実証することで、付加価値が高く比較的取り組みやすい作物などについて検討を重ねてまいりました。

2つ目の目標としての「新たな佐久市ブランド品の育成」では、地域の特性に合いつつ、「佐久市らしい」農産物の実証栽培試験を行ってまいりました。

地域の主力農産物であるミニトマト・ズッキーニの優良品種の選定の実施により、産地として優位販売が出来る品種などを選定しました。

また、実証展示で終わりではなく、消費者の嗜好に合う加工や販売を見据えた6次産業化への取組の一環として、観光イベント等に合わせ、試験ほ場で生産された農産物や、普及推進を図ってきた農産物を組み合わせた試食イベントを行いました。

2 平成27年度新品目導入試験事業の概要



3 平成27年度に取り組んだ試験の内容について

I. 「収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験」

- ① 「カモミール」の栽培 10a
26年11月上旬～27年6月上旬
- ② 「冬至かぼちゃ」栽培 5a
7月下旬～10月下旬

II. 「新たな佐久市ブランド品の育成」

- ③ 伝統野菜「佐久古太きゅうり」の栽培展示と栽培講習会
6月上旬～10月下旬 0.2a
- ④ 優良品種選定試験「ズッキーニ」
8月中旬～10月下旬 弱毒ウイルス耐性試験 0.3a
- ⑤ 優良品種選定試験 「ミニトマト」
3月下旬～11月上旬 葉カビ病耐性品種選定 0.9a
- ⑥ イタリアトマト「シシリアンルージュ」の栽培試験
7月中旬～10月下旬 露地栽培でのミニトマト生産実証試験 0.2a
- ⑦ ミニトマトの簡易雨よけを利用した栽培
3月下旬～10月下旬 簡易雨よけを利用した栽培試験 計0.2a
- ⑧ アスパラガスの冬期収穫のための促成栽培実証試験
4月上旬～2月中旬 株養成 2a 促成栽培 0.05a

Ⅲ. 「試験品目及び推奨品目の普及活動」

各イベントに合わせた、栽培品目や市内産農産物のPR活動について

- ・イベント名 : バルーン係留搭乗体験

場 所 : 市民交流広場

実施日、PR野菜、PR人数

: 7月12日 ロメインレタスとズッキーニ →120名
: 8月 9日 イタリアトマトと長者原キャベツ → 80名
: 9月13日 イタリアトマトとリーキ →150名

- ・イベント名 : ヒルクライム佐久2015

実 施 日 : 9月19日

PR 野 菜 : イタリアトマト・リーキ・長者原キャベツ・パプリカ・にんじん

PR 人 数 : 300名

- ・イベント名 : 佐久市農業祭

実 施 日 : 11月7日

PR 野 菜 : イタリアトマト・リーキ・長者原キャベツ・パプリカ・にんじん・
大船渡市産ムール貝

(市内産農産物と岩手県大船渡市産海産物のPR)

PR 人 数 : 200名

佐久市新品目導入試験事業講演会の開催

演 題 : 昨今の市場の動きと国産ハーブの需要について

開 催 日 : 2月23日

参加者数 : 80名

講 師 :

東京築地市場内「東京シティ青果株式会社」営業推進本部長 小谷洋二様

東京都江東区 「株式会社カミツレ研究所」代表取締役社長 北條裕子様

カモミール

栽培期間 平成26年11月～平成27年5月

品 種 ジャーマンカモミール（出荷先指定）

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 45 cm

シルバーストライプマルチ

元肥 発酵鶏糞 200 kg/10a

追肥 発酵鶏糞 40 kg/10a

栽培経過

平成26年 10月 播種（JA育苗センター）

11月 定植

平成27年 3月 追肥

4月 シルバーテープ張り（アブラムシ対策）

5月 刈取り（バインダー収穫）

～7月 乾燥・細断

8月 出荷

試験結果

収穫量（乾燥重）300 kg 前年比96%

作業時間 定植 3時間（前年度並み）

収穫 4時間（前年度並み）

乾燥 約5週間

考察

栽培 4 期目を迎え、定植作業の機械化については安定した結果を得られている。

播種～育苗に関してはJA育苗センターへ委託しており、一昨年導入した播種機のドラムによるセルトレイ播種に改良の余地がある。

バインダーによる、収穫の機械化については、かなりの時間短縮につながっており、本格的な導入を検討したい。

乾燥から細断については、ハウス内での吊るし乾燥に加え、送風乾燥を実施した。

また、細断に剪定枝用のチップパーを導入した結果、乾燥・細断程度ともに良好な結果であったが、その後の細断作業時に投入がしにくい物があった。

一昨年より春先 4 月の干ばつが生育に大きく影響を与えており、草丈および、分けつの量が少なかったため、面積当たりの収穫量が落ち込んだ。

また、本年度より JA 佐久浅間内に「カモミール研究会」が発足し、生産出荷の体制づくりができた。



↑ 圃場風景



↑ 機械収穫



↑ 送風乾燥

次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の栽培を実施するべく、栽培を開始している。

元肥の量を増加したが、春先の干ばつに対する備えを強化し、草丈の伸びを促進させるような技術確立する。

収穫後の、乾燥を1日～2日ほ場で行い、重量を減らしてから乾燥工程に移す作業体系を試験する。

送風乾燥を基本とし、早期の出荷を目指す。

冬至かぼちゃ

栽培期間 平成27年 7月～10月

品 種 栗五郎（カネコ種苗）

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm

白マルチ

元肥 BB-042 13.1 kg 炭苦土 6.5 kg

追肥 株間に化成肥料 40 kg（8月25日）

栽培経過

6月17日 施肥・うね立て

15日 2ヶ取り播種 165粒

2本立て2ヶ取り9粒

23日 定植

9月10日 マット敷き

10月20日 収穫

キュアリング

試験結果

1果どり 病虫害による被害なし

平均重・サイズは（M・L・2Lサイズ）

H27 キュアリングを実施しないものを、農業祭で食味調査

（H26はキュアリングを約2週間実施後に、農業祭で食味調査実施）

考察

水田転作の有力品種として「冬至かぼちゃ」の栽培を実施した。

カモミール栽培後の連続栽培が可能かという点を重点としたが、気候によってはかぼちゃの収穫後にすぐカモミールの定植ができない可能性もあり、場所を変えての栽培とした。

また、麦による「リビングマルチ」の試験も同時に行ったがかぼちゃのツルが麦に撒きつき、収穫時に作業工程が増えることも判明したため、リビングマルチの技術については慎重に行いたい。

佐久市農業祭における食味調査の結果は、キュアリングがなされていない「栗五郎」であったが、食味について良好な結果であった。

若手農業者による栽培がおこなわれているが、産地化までは至っておらず今後の栽培面積拡大が求められていることなどから、より一層栽培技術に特化した試験が求められている。



↑ 生育初期



↑ 中期



↑ 収穫後

次年度における試験項目

カモミールとの輪作体系化を図るとともに、仕立てや植栽密度による作業効率の向上を目指した実証試験を実施していく必要がある。

雑草対策と土壌改良を同時並行で行えるよう、カバークロップによる秋冬から春にかけての圃場管理についても市内農業者の協力をいただきながら実施していく。

佐久古太きゅうり

栽培期間 平成27年 5月～10月

品 種 佐久古太きゅうり（信州の伝統野菜）

施肥・栽培管理

株間 100 cm 畝間 90 cm×10m

白マルチ

元肥 堆肥 浅間野菜化成 2 kg サンライム 2 kg ようりん 1 kg

病害虫防除については、慣行のきゅうり栽培どおり

栽培経過

5月12日 播種

21日 仮植

25日 定植

7月15日 収穫開始

10月中旬 収穫終了

栽培結果

苗1本あたり 約100果の収穫量

平均重・サイズともに例年並み

栽培希望者への苗の配布と栽培講習会の実施（5/26～28、20グループ、192本配布）

（仕立て方法や、管理方法についての講義）

加工事業者に向けた種子配布を同時に行い、栽培と加工販売が結びついた体制を引き続き実施

考察

試験ほ場の開始年度から継続して実証展示栽培と、栽培者を増加させるための取り組みを行っている。

栽培希望者や野菜栽培講習会の参加者への講義を行うための栽培にしているが、収穫量については例年並みであり、気候や栽培の場所の変化に対しては強い。

樹勢が旺盛で、果実が小型であるため、葉の整理を怠ると取り忘れの果実が肥大化しやすい。

また、収穫の後半（9月中旬以降）になると、不受精の変型果や空洞果の発生が多くなるため、断面の形状が丸みを持った四角形から三角形に変わり始めたら、良品は減少する。

なお、昨年度は市外のバイヤー等による視察を実施したが、形状や品質保持に難点があり生での出荷は難しいとの評価を得ていたため、本年度は市内の漬物加工事業者による加工を主体として取り組んでいただいた。



↑ 苗



↑ 収穫適期のもの



↑ 樹勢の様子

次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の栽培を実施するが、信州の伝統野菜に認定されるための条件である、栽培グループについて、本格的に取り組むほか、種取を実際に行って自家採種についての講習を実施したい。

ミニトマト（優良品種選定試験）

栽培期間 平成27年 4月～ 10月

品 種 サンチェリーピュア（対照品種）、プレミアムルビー、キャロルスター、
サンチュリーピュアプラス、トレモロ、リトルジェムLS、
フルーツガーネット、AMS-100、華キュート

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm×18m

白マルチ

元肥 特肥いきいき(4-6-3)20 kg ジャンプ有機(6-3-1)13 kg 炭苦土 20 kg

FTE 1.5 kg なたね粕 10 kg

栽培経過

3月25日 播種

16日 施肥

17日 仮植

20日 うね立て・マルチ

5月 7日 定植

25日 葉かき開始

6月22日 収穫開始

7月23日 第1回優良品種調査

9月 7日 第2回優良品種調査

9月 7日 現地研修会

試験結果

別紙試験結果表のとおり（優良品種が2種、検討品種が1種）

その他品種については、継続および検討外

考察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品種であるサンチェリーピュアより、耐病性に選れ、なおかつ食味や樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のサンチェリーピュアを含む9種類での試験を行った。

結果としては、別表のとおり対象品種より優秀であるとの評価を得て、次年度に導入が決まった品種が2種あった。

昨年度までは、次年度検討品種止まりであったことを踏まえると、大きな成果であった。

また、その他の品種も出荷適正では難点がありつつも、食味や色合いなどで選定品種を上回るものもあり、こだわりの栽培や契約栽培などではかえって優位販売が見込まれる物もあった。

耐病性については、長野県内ではまだ問題とあっていないが黄化葉巻病に対する抵抗性なども考慮に入れていかねばならない。



↑ 定植時の様子



↑ 圃場の様子



↑ 箱詰め品

次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の試験を実施するが、前述のとおり今後問題となってくることが見込まれる病害や、栽培技術に関する試験も検討していく必要がある。

ミニトマト 優良品種選定試験

対照品種サンチェリーピュアに対する耐病性並びに収量性・商品性の調査結果表

品種名	総合評価	H28 年度再検討	H28 年度実用性あり
プレミアムルビー	同 等		
キャロルスター	同 等		
カチリピュアラ	若干優れる	○	○
トレモロ	優れる	○	
リトルジェムLS	若干優れる	○	○
フルーツガーネット	同 等		
AMS-100	同 等		
華キュート	—	—	—

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

各品種の特記事項

フルーツガーネット 甘く、皮が口の中に残りにくい。栽培中の実割れが少ない。

プレミアムルビー 果実の艶、糖度、酸度のバランス良い。但し皮（肉）が固く残る感がある。収穫前半、果形が楕円から尖りとなる。

キャロルスター 葉がコンパクトで収穫しやすい。樹勢を維持するのが難しく、後半バテる。（追肥をする樹は太らず花房の若返り、脇芽が増える）果実の揃いがあまり良くない。

カチリピュアラ 対象品種に比べて後半樹勢がおとなしい。斑点病、うどん粉病は強い。対象品種より副花房の発生少なく、収量は少な目。食味は大きな違いがない。

- トレモロ 初期、後期とも樹勢が強く収量性が高い。食味は際立った特徴はないが、対象品種より葉が大きいので収穫作業で若干マイナス。その分日焼けが無く、秋の裂果も少ない。
- リトルジェムLS 名前がLSながら若干斑点病があった。後半も樹勢強めで追肥さえすれば樹勢管理はなさそう。収量は対象品種と同程度だが、導入品種のリトルジェムWより劣るか。若干軟果傾向。
- フルーツガーネット 果肉は柔らか、三位少なく糖度がそこそこ、ゼリー感がある（大玉に近い感じ）節間眺め、葉が若干大きく、誘引、収穫作業に若干果難あるか。果実の揃いはあまり良くなかった。
- AMS-100 追後半も樹勢を維持したがグリーンバックが発生。（吸肥力に関係か）果実に艶がある鮮赤。ほか、対象品種と比較し優位性を感じなかった。黄化葉巻対策としては有望な品種。
- 華キュート 生理障害により調査対象外。

ズッキーニ（優良品種選定試験及び弱毒ウィルス接種株試験）

栽培期間 平成27年 5月～ 10月

品 種 ゼルダネロ（対照品種）、ブラックボー、KDS、弱毒ウィルス接種株、
パスコラ、KZA、TSX-710Z

施肥・栽培管理

株間 80 cm 畝幅 180 cm 2 畝

マルチ

元肥 BBO42 5 kg、ようりん2kg、炭苦土6 kg

2 回目は、1 回目に栽培したマルチへ播種した。

栽培経過

5月 1日 播種

5月 8日 施肥

5月20日 定植

6月18日 1 回目の収穫開始

7月23日 第1回優良品種調査

8月21日 2 回目播種

8月31日 2 回目定植

10月 2日 2 回目収穫開始

10月15日 第2回優良品種調査

試験結果

別紙試験結果表のとおり

弱毒ウィルス株による発病度合いは別紙のとおり

考察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品目であるズッキーニについて、耐病性に選れ、樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のゼルダネロを含む 7 種類での試験を行った。

結果としては別表のとおりであり、次年度導入検討品種があった。



↑ 定植時の様子



↑ 生育期の状況



↑ 株の状態

次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の試験を実施するが、弱毒ウィルスについての試験実施は品種の選定試験とは栽培箇所を変更して実施していく。

市内農産物のうちでもズッキーニは主力品種であるため、次年度も、同試験は継続して行う。

弱毒ウィルスに対する試験については、佐久農業改良普及センターと相談していく。

ズッキーニ 優良品種選定試験

対照品種ゼルダネロに対する耐病性並びに収量性・商品性の調査結果表

品種名	総合評価	H28 年度再検討	H28 年度実用性あり
パスコラ	同 等		
TSX-710Z	同 等	○	
ブラックボー	同 等		○
KZA	同 等	○	
KDS	若干劣る		

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

各品種の特記事項

パスコラ 樹勢強く、ウィルス、うどん粉病に強い。初期は果実が太すぎて中心等級のMにならない。後半果形が乱れる。華梗が短く収穫しにくい。

TSX-710Z ウィルス等耐病性は対象品種並み。果実は対象品種（12M中心）が（10L～11M）の微妙なサイズ。後半果形乱れる。

ブラックボー 樹勢が強く、ウィルス、うどん粉病に強い。後半果形が細る。樹勢に任せて葉を茂らせすぎると内部に光線が届かず果肉が淡くなる。トゲが気になる。

KZA 樹勢やや強く、ウィルス、うどん粉病に強い。ベトは試験品種中最も強い。果実は果形太く、果長短い、脇芽も少ない。

KDS 樹勢強く、ウィルス、うどん粉病は対象品種より強いがベトは同程度（他品種に比べ弱い）。果実は細く、色が淡い、脇芽が対象品種並みに旺盛。

イタリアトマト（実証展示栽培・加工品試食）

栽培期間 平成27年 5月～ 10月

品 種 イタリアトマト（シシリアンルージュ）

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm×10m 2本 ソバージュ栽培

マルチ

元肥 特肥いきいき 2.5 kg、なたね粕 2.0 kg、炭苦土 3.0 kg

栽培経過

- 4月 1日 播種
- 8日 仮植
- 5月28日 うね立て・マルチ
- 5月29日 支柱立て・ネット張り
- 6月 8日 定植
- 8月 収穫開始
- 8.9月 熱気球体験搭乗者へ冷製スープでの提供
- 10月 自転車レース参加者へ300食スープ配布
- 11月 佐久市農業祭にて野菜とムール貝のスープ200食提供

結果

販売価格が生産者によってバラつきがあり、単純な生産だけでは普及が難しいが、加工性が良く6次産業化の有望品種である

考察

平成 25 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内でのイタリア野菜普及のための足掛かりとしている品目である。

生食トマトに比べ、リコピンやプロリンなどの抗酸化物質の含有量が豊富な高機能トマトである点と、生食・加熱の両方に向けた使い勝手の良いトマトで、ミニトマトに比べヘタの無い状態で出荷できる点や、露地で栽培できる点など、施設の必要が無いため、新規の就農者や定年帰農者などの資本が少ない方に向いている。

高付加価値での販売を目指すためには、パッケージングや加工等の手をかける必要があるが、加熱時の「味が濃い」「うまみが強い」などの利点を前面に出した戦略を持つ必要がある



↑ 生育初期の様子



↑ 生育中期の様子



↑ 生育後期の様子

次年度における試験項目

シシリアンルージュもしくは同系統のピッコラルージュ・ロツソアモーレなどの品種を検討していきたい。

市内の飲食店において利用が広がっていくような戦略も必要である。

アスパラガス促成栽培

栽培期間 平成 27 年 5 月～28 年 2 月

品 種 ウェルカム

施肥・栽培管理

株間 40 cm×80 cm

マルチ 黒マルチを両サイドに設置

元肥 炭苦土 27.5 kg ダブリン 7.4 kg 浅間野菜化成 50 kg

栽培経過

平成 27 年 5 月 11 日 定植

6 月 18 日 ネット張り

28 日 うね立て・マルチ

12 月 15 日 堀りあげ

16 日 伏せ込み

平成 28 年 1 月 10 日 加温開始

1 月 12 日 収穫開始

結果

ウェルカムの 1 年株による促成栽培を実施した。

1 株当たりの発生本数は 4.2 本であり、出荷規格を満たすサイズはその端数程度であることから、現状の栽培体系では費用対効果が薄い。

十分に地下部を育てつつ、収益を生み出すためには 1 年半の株養成期間を置いたほうがよさそうである。

考察

1 年養成株を利用しての促成栽培を実施したが、出荷規格を満たす出荷品の率が低いことと、収穫期間が約 1 か月と短いこと（2 年養成株では 2 か月）もあり、2 年養成株に比べると生産量がかなり落ちる。

2 年養成株は発生が遅く、長期収穫が可能であることは昨年度実証済みであるため、本年度の試験目的である養成期間短縮のデメリットは検証することができた。

しかしながら、2 年養成株が病気の発生に伴う収量低下のリスクを負っていることもあり、秋季定植の 1 年半株養成に今後の期待をしたい。



↑ 株養成の様子



↑ 5 月中旬の様子



↑ 1 月初旬の様子

次年度における試験項目

品種をウェルカムに固定し、1 年株と 1 年半株の株養成を同時に実施する。

平成 28 年度に 1 年株の冬季収穫調査、平成 29 年度に 1 年半株の冬季収穫調査を実施し、生育状況とともに収穫量についても比較する。

その他栽培実証展示品目 (パプリカ)

栽培期間 平成27年 4月～27年 9月

品 種 赤系(スペシャル) 黄系(フェアウェイ) どちらも苗からの栽培

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 90 cm×17.5m

マルチ 白マルチ

元肥 特肥いきいき 20 kg ジャンプ有機 13 kg なたね粕 10 kg

炭苦土 20 kg FTE 1.5 kg

栽培経過

平成27年 4月16日 施肥

20日 うね立て・マルチ張り

22日 定植(赤)(黄)

28日 支柱立て

6月12日 仕立て・誘引

7月3日～ 追肥 液肥

7月25日 収穫開始



↑ 栽培講習会での定植



↑ 誘引後の様子



↑ 整枝についての講義

結果

実証展示及び野菜栽培講習会用の展示講習用栽培で、平成24年度から栽培を継続している。

講習会参加者からの次年度継続の要望が多く、推進すべき施設作物として継続して栽培実施していく。

普及推進作物PR活動について

栽培品目、推奨品目を使用した試食の提供やレシピの配布を実施した。

9月19日 ヒルクライム佐久2015でのスープの提供（300食）



7月12日、8月9日、9月13日 熱気球体験搭乗イベントに合わせた、農産物PRとスープの提供



↑ 熱気球体験搭乗会場

↑ 佐久市産農産物PR

↑ スープとレシピの提供

11月7日 佐久市農業祭で「山と海の農産物スープ（野菜とムール貝のスープ）」の提供



原材料

イタリアトマト、リーキ、長者原キャベツ、
パプリカ、にんじん、大船渡市産ムール貝

↑ 農業祭のスープ提供

観光イベントに合わせた提供により、多くの方に味わっていただけたことや、親子で参加する方にPRを行うことができた。これにより、イタリア野菜をはじめとした新品目野菜の利用や購買に積極的な年齢層の方に美味しさや、高機能性を紹介することができた。

今後これらのPR活動を継続することにより、より多くの市内外の購買者を増やせるものとする。

「佐久市新品目導入試験事業講演会」

試験ほ場で栽培をしているカモミールや、昨今の市場動向について契約事業者と流通事業者による講演会を佐久市市民創錬センター大会議室において実施した。

実施日 28年2月23日 佐久市市民創錬センター大会議室にて 参加者 80名



「昨今の市場の動きと国産ハーブの需要について」と題した、講演会には農業関係団体関係者や一般の方を含め、80名の参加者に講演会を実施し、農産物流通の現場でどのような問題が起きているのか、今後どういった農産物生産が求められるのか、といった講演と国産ハーブ（カモミール）の需要の拡大にとって必要なことや栽培について支援を行っているかなどの講演を行いました。

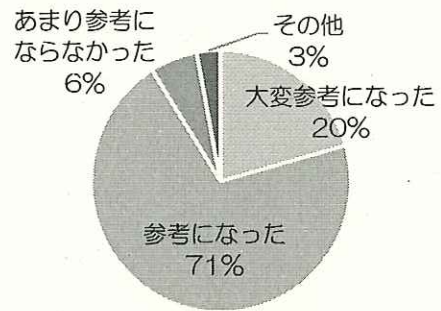
（アンケート結果は別紙）

参加者からは、カモミールの栽培の現場を見たいという声も聞かれたことから、機械化による効率的な生産だけでなく、現物に触れていただくための機会をもうけることとしていきます。

講演会アンケート結果集計

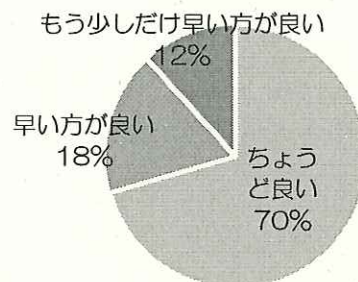
I 皆様の参考になりましたか

大変参考になった	21%
参考になった	71%
あまり参考にならなかった	6%
まったく参考にならなかった	0%
その他	3%



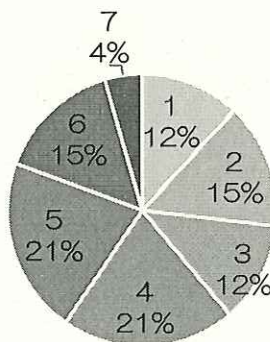
II 開催時期はどうですか

ちょうど良い	71%
早い方が良い	18%
もう少しだけ早い方が良い	12%
もう少しだけ遅い方が良い	0%



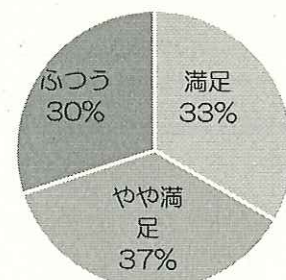
III 佐久市の新品目導入試験ほ場では、新しい野菜や新技術について取り組んでいますか この事業で、取り組んだ方が良いと思うのはどれでしょうか？

1 イタリア野菜などの新しい品目（新品目の栽培特性試験）	12%
2 伝統野菜や地域独自の品目の試験（地域色豊かな作物の栽培）	15%
3 一般的に栽培されている野菜などについての新しい技術（新技術の普及）	12%
4 水稲以外で収益が安定している作物（水田転作の推進）	21%
5 定期的な栽培講習会や、機械・技術などの実演会（その他）	21%
6 栽培した作物の販売に関する相談会や販売会などの実施（販路拡大のPR活動）	15%
7 その他	4%



IV 今回の講演会についてはいかがでしたか？

満足	33%
やや満足	37%
ふつう	30%
やや不満	0%
不満	0%



「野菜栽培講習会」

直売所等に出荷できる野菜農家を育成するため、栽培技術に関する講習会を実施した。

講習会日程

回数	実施日	内容
1	4月15日(水)	・開講式 ・土づくり ・苗づくり ・パプリカの定植 ・ミニトマト
2	5月15日(金)	中止
3	5月25日(月)	・佐久古太きゅうりの栽培技術 ・パプリカの誘引 ・ミニトマトの定植 (肥料、追肥、消毒、害虫等の話)
4	6月12日(金)	・きゅうり、古太きゅうり、なす、ほおずきの芽かき作業 ・パプリカ、 ぼたんこしょうの誘引方法の説明および実践 ・病気及び農薬の説明等
5	6月24日(水)	・きゅうり、古太きゅうりの仕立て方、・ナスの支柱の方法、 ・パプリカ、ミニトマトの生育状況の確認
6	7月10日(金)	・きゅうり、古太きゅうりの誘引方法 ・なす、ほおずきの誘引方法 ・ミニトマト(品種別での試食) ・きゅうり、古太きゅうりの味比べ
7	7月21日(火)	・ナスの切り戻し ・きゅうり、古太きゅうりの収穫 ・ズッキーニの収穫
8	8月6日(木)	・きゅうり、古太きゅうりの選定方法 ・ナスの切り戻し方法 ・ミニトマトの試食 ・秋野菜の栽培方法について(キャベツ、白菜、 下仁田ネギ、野沢菜 等)
9	8月20日(木)	・きゅうりの栽培方法 ・ナス、ほおずきの仕立て方 ・かぼちゃの仕立て方 ・秋野菜のたねの蒔き方
10	9月17日(木)	・きゅうりの葉かき方法 ・ナスの葉かき方法 ・秋野菜の質問
11	10月23日(金)	・土づくりの話 ・かぼちゃの試食 ・ミニトマトの試食

講習会受講者数 13名



野菜栽培講習会の様子